



魅力ある高校生にインタビュー

明日へ ジャンプ



No.162

オール興陽で6次産業化に挑む 「興陽ブランド」ピクルスの商品化



伊勢崎興陽高等学校 3年 鹿沼乃莉さん(上)・津久井快人さん(下)

伊勢崎興陽高校のちと緑を育む系列で農業を学ぶ鹿沼さんと津久井さんは、学校を挙げて取り組み「6次産業化プロジェクト推進委員会」に2年生だった昨年の春から参加しています。伊勢崎興陽高校全6系列から集まったメンバー全員で考え、話し合い、行動し、「興陽ブランド」ピクルスの商品化に挑みました。津久井「いのちと緑を育む系列の役割は、ピクルスにする野菜作りです」

鹿沼「トマト、ナス、キュウリ、ラディッシュ、カボチャ。私たちが作った野菜を使って、他の系列のメンバーがピクルスを試作し、試食会をして商品化する野菜を決めました」

商品化のための野菜作りはいつも以上に大変だったそう。津久井「収穫するタイミングにいつも以上に気を使いました。興陽ブランドの商品になる野菜なので、最もおいしい収穫適期を逃さないよう、日々の観察が大変でした」

完成したピクルスは、生徒たちによる値段設定やラベルデザイン、営業許可の取得といった過程を経て商品化。まずは学校内で生徒向けに販売



プロフィール

つくい・かいと(左)
趣味は野球観戦で、自室をオレンジ色に染める熱烈な巨人ファン。人と交流することが好き。

かぬま・あいら(右)
休日は趣味の菓子作りをして過ごす。将来は人の役に立てる仕事に就きたいと考えている。

しました。鹿沼「用意したピクルスはすぐに完売しました。食べた友達が『おいしかったよ』って言いに来てくれて、とてもうれしかったです」

4月から動き出した第2期6次産業化プロジェクト推進委員会。2人に第2期の目標を聞きました。

津久井「学校内だけではなく、スーパーマーケットでも販売したいです。ゆくゆくはレストランで食材として使ってもらえるピクルスにしたいです」

鹿沼「キッチンカーでピクルスを使った料理を販売したいです。その料理を食べべてピクルスを気に入り、買ってくださうれしいです」

発行 伊勢崎市 0270-24-5111 FAX 0270-23-9800
〒372-8501 群馬県伊勢崎市今泉町二丁目410番地 URL https://www.city.isesaki.jp
編集 広瀬 印刷 川島美術印刷株式会社 毎月1日・16日発行

3月下旬、市内の桜の花は美しく咲きそろう、うららかな春の訪れを感じさせます。今号の表紙写真は、桜が満開に咲いた華蔵寺公園遊園地の遊具で遊ぶ子どもたち。取材当日は前日の曇り空とは打って変わり、心地よい春の陽光に包まれました。華蔵寺公園遊園地では、大勢の親子連れが訪れ、桜の花を間近で見られるサイクルモノレールは大盛況。ペダルを勢いよくこぎ出す子どもたちの楽しむ姿に狙いを定め、カメラのシャッターを切りました。(ぼ)

編集後記

✉ いせさき情報メールに登録を!

災害・防災情報や地域の防犯情報をメールで配信しています。いざというとき、必要な情報を確実に得られるよう、いせさき情報メールに登録をしておきましょう。

お問い合わせ
安心安全課 (☎27-2706)

登録の方法
携帯電話で次のメールアドレスに空メールを送信してください
✉ t-isasaki@sg-m.jp